OUKA
Osaka University Knowledge Archive

Title	内陸アジア言語の研究 XIX 裏表紙
Author(s)	
Citation	内陸アジア言語の研究. 2004, 19
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/21371
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

『内陸アジア言語の研究』 執筆要項

1．本誌は，中央アジアと中国を中心に，東は東北アジアから西は黒海沿岸にまで広がる中央ユーラシアの諸民族が用いる様々な言語，及びその言語で書き残された古代～近代の文献資料（出土文書・碑文・宗教典籍など）を，言語学的あるいは歴史学的に扱う論文を掲載する．

2．原稿は未発表のものに限る．ただし口頭発表したものはこの限りではない．

3．原稿の長さは自由である．論文の場合，刷り上がり状態で 20 ページ（和文では 400 字詰め原稿用紙で約 50 枚．欧文では約 6000 語）を一応の目安とする．ただし，数ページ程度の研究ノートや資料紹介の類も歓迎する．なお，投稿の際，800 字以内の論文概要を付し，原稿の分量（和文原稿の場合，400 字詰め原稿用紙に換算した総頁数．欧文原稿の場合は総単語数とする）と図版枚数について明記すること．

4．投稿の締め切りは毎年 2 月末日とする．査読の結果は追って通知する．

5．入稿について

印字したワープロ完成原稿とともに電子データファイルを入稿する．ワープロにない漢字・記号などの部分は，当該箇所を空けて印字原稿に朱筆で指示する．写真・図版等は版下として利用に堪える鮮明なものを用意されたい．手書き原稿も受け付けるが，編集にかかる実費を請求する場合がある．

1) Macintosh 使用の場合

あらかじめ指定フォントで作成された原稿を入稿するのが望ましい．利用するワープロソフトの種類を編集部に連絡されたい．内陸アジア諸言語の転写に必要なフォントを編集部から配布する．

2) MS-DOS, Windows 使用の場合

Microsoft Word ファイルでの入稿が最も望ましいが，テキストファイル形式に変換したものも認める．

3) 論文末尾に執筆者の所属・肩書・専攻，表題の欧米語訳，執筆者名のローマ字表記を付記すること．

以上はあくまでも原則である．不明の点は編集部に問い合わせられたい．

6．書式として，以下の統一方針を定める．

1) A 5 版横組み，奇数頁起こしとする．

2) 句読点は「，．」を用い，「、。」は用いない．

3) 地の文にはつとめて当用漢字・新かなづかいを用い，旧字体・旧かなづかいの使用は引用文等で必要な場合のみにとどめる．

7．原則として，著者校正は 1 回のみとし，再校は編集委員の責任とする．校正はあくまでも誤植の訂正にとどめ，原文の増減は認めない．

8．抜刷は作成しない．各執筆者には本誌 10 部を献呈する．

2004 年 7 月

執筆者紹介

笠井幸代 (Yukiyo KASAI)
大阪大学大学院文学研究科博士後期課程　東洋史学専攻
ベルリン自由大学トルコ学科 ドイツ学術交流会奨学生

耿　世民 (GENG Shimin)
中央民族大学教授　トルコ文献学専攻

Jens Peter LAUT
Professor, Albert-Ludwigs-Universität　トルコ文献学専攻

Georges-Jean PINAULT
Directeur d'études, École Pratique des Hautes Études　印欧語学・トカラ語学専攻

玉井達士 (Tatsushi TAMAI)
M. A., Joann Wolfgang Goethe-Universität　比較言語学専攻

沖田道成 (Michinari OKITA)
立命館大学大学院文学研究科博士後期課程　東洋史学専攻

加藤　聰 (Satoshi KATO)
追手門学院大学非常勤講師　中国文学専攻

佐藤貴保 (Takayasu SATO)
大阪大学大学院文学研究科特任研究員　東洋史学専攻

高橋文治 (Bunji TAKAHASHI)
大阪大学大学院文学研究科教授　中国文学専攻

向　正樹 (Masaki MUKAI)
大阪大学大学院文学研究科博士後期課程　東洋史学専攻
北京大学歴史系中国古代史高級進修生 中国政府奨学金留学生

山尾拓也 (Takuya YAMAO)
大阪大学大学院文学研究科博士前期課程　東洋史学専攻

山本明志 (Meishi YAMAMOTO)
大阪大学大学院文学研究科博士後期課程　東洋史学専攻

宮　紀子 (Noriko MIYA)
京都大学人文科学研究所助手　中国語学・中国文学専攻

内陸アジア言語の研究　XIX

2004年 7 月 20 日　印刷
2004年 7 月 30 日　発行

責任編集　森 安 孝 夫　(大阪大学)
吉 田　豊　(神戸市外国語大学)
Peter Zieme　(Berlin-Brandenburgische Akademie der Wissenschaften)

発 行 者　中央ユーラシア学研究会
〒 560 - 8532　豊中市待兼山町 1 - 5　大阪大学文学部森安研究室内
tel: 06 - 6850 - 5103 / fax: 06 - 6850 - 5103
e-mail: moriyasu@let.osaka-u.ac.jp
http://www.let.osaka-u.ac.jp/toyosi/sial/index-j.html

取 扱 店　株式会社　朋 友 書 店
〒 606 - 8790　京都市左京区吉田神楽岡町 8　tel: 075 - 761 - 1285
e-mail: hoyubook@mbox.kyoto-inet.or.jp
株式会社　東 方 書 店
〒 101 - 0051　東京都千代田区神田神保町 1 - 3　tel: 03 - 3937 - 0300
e-mail: tokyo@toho-shoten.co.jp
〒 564 - 0063　吹田市江坂町 2 - 6 - 1　tel: 06 - 6337 - 4760
e-mail: kansai@toho-shoten.co.jp

印 刷 所　有限会社　中部ワードサービス
〒 440 - 0865　豊橋市向山台町 10 - 10　tel: 0532 - 55 - 8503
e-mail: cws@mx1.tees.ne.jp

ISSN 1341-5670

STUDIES ON THE INNER ASIAN LANGUAGES XIX

T. MORIYASU, P. ZIEME & Y. YOSHIDA
Obituary: Kōgi KUDARA (31th May 1945 - 12th May 2004) i

Y. KASAI : Ein Kolophon um die Legende von Bokug Kagan 1

GENG Shimin, J. P. LAUT & G.-J. PINAULT : Neue Ergebnisse der *Maitrisimit*-Forschung (II) : Struktur und Inhalt des 26. Kapitels 29

T. TAMAI : On Tocharian Document No. 174 in the Tokyo National Museum 95

M. OKITA, S. KATO, T. SATO, B. TAKAHASHI, M. MUKAI, T. YAMAO & M. YAMAMOTO
Japanese Translation and Commentary of the *Wutai bibu* (2) 109

N. MIYA : System of Translation Bequeathed by the Mongol Empire : Remarks on the Language Used in the Old Edition of the *Laoqida* 157

The Society of Central Eurasian Studies

2 0 0 4